

栃木県原水協ニュース

No 184号 2018年11月1日
 原水爆禁止栃木県協議会
 〒321-0138 宇都宮市兵庫塚3-10-30
 栃木県労連気付 電話 028-653-1401
 メールアドレス: tcgken-gensuikyo@outlook.jp

宇都宮市原水協が「ふたば健康まつり」でパネル展・署名活動



10月28日、栃木保健医療生活協同組合はふたば診療所で健康まつりを開催しました。16回目のまつりには、約600人が参加し、健康体操やゲームなどが行われ、模擬店が出店されました。宇都宮市原水協は、その一角に「原爆パネル」を展示し、「ヒバクシャ国際署名」を行いました。

原爆パネルの前で、大人も子どもたちも熱心に見入っていました。その人たちに声をかけると署名に応じてくれて、38筆の署名が集まり、ちひろカレンダー2本も普及しました。

また、パタパタ折り鶴の作成コーナーでも多くの人たちが集まって、楽しそうに折り鶴に取り組んでいました。

「新日本婦人の会栃木県本部2018年秋の平和学習会」開催

10月21日、「非核・平和の北東アジアをめざして」と題して、日本平和委員会代表理事の川田忠明氏による講演が行われました。これまでと違った朝鮮半島情勢の劇的な変化と非核平和の北東アジアの展望を非常にわかりやすい説得力のある言葉で語っていただき、大好評でした。

1. 女性と平和と社会発展 戦争犯罪としての性暴力、「慰安婦」問題について。女性差別は社会発展の障害物であること、戦争のない世界は性別差別のない世界、「女性なくして平和なし！」

2. 「戦争する国づくり」の破綻 戦争から平和へと朝鮮半島情勢は激変した。その変化の土台に反核世論、核兵器禁止条約を生み出した力、韓国の市民の力がある。安倍首相の「北脅威」は根拠を失った。最大の教訓は「抑止力」は通じなかった。辺野古・米軍新基地建設も「沖繩に米軍を配備する合理的理由がなく」とペリー元国防長官も述べている。

3. 最大の課題―安倍九条改憲阻止 異常な暴走ぶりの安倍改憲にたいして、「自衛隊が人気があるのを逆手にとって、9条に書き込もうとしているが、我々はこれをまた逆手にとつて、人気のある自衛隊を米軍と世界で戦争にかり出す危険にさらしてよいのか？」と訴えるべき。改憲のねらい、大軍拡計画。

4. 朝鮮半島の平和と非核化 これまでと違う「新しい米朝関係」―首脳同士の合意は簡単に後戻りできない。なぜ非核化は可能か―北朝鮮の目的は金体制の維持―朝鮮戦争の終結と平和協定の締結。カギ①非核化と平和体制の一体的追及。当面のカギは「終戦宣言」、カギ②よく話し合い、一歩ずつ段階的に。平和協定の交渉と締結―終戦宣言―実質的な非核化―制裁解除―南北の経済協力もすすみ、信頼と安定の強化―南北米中による平和協定の交渉と締結―米韓vs中朝軍事ブロックの対立解消の可能性

5. 非核・平和の北東アジアと日本へ 6カ国の平和の枠組みへ、非核化の担保―核保有国による非核化への核攻撃・威嚇の禁止、日本の非核化―日米核密約を破棄し、非核3原則の厳守・法制化、北東アジアの友好協力条約―武力不行使を協定化―北東アジアの集団的安全保障体制、日米韓vs北中ロの軍事ブロック型対立の解消へ、日米安保条約を日米平和友好条約へ。それだけの可能性を秘めた歴史的転換点の出発点である。

6. 日本の運動に求められるもの 安倍9条改憲と「戦争する国づくり」にストップ―三千万署名、辺野古新基地建設反対、軍事費を削って福祉・暮らし・教育へ、圧倒的な反核世論―ヒバクシャ国際署名、核兵器禁止条約への署名・批准、被爆者を先頭に日韓の連帯、市民と野党の共闘で安倍政治を終わせる、などが求められる。



「ヒバクシャ国際署名」数

諸団体	協水原北	2,590筆
	協水原南	102筆
	協水原宇都宮市	1,208筆
	会核の	1,178筆
	会連の	7,729筆
	会連の	2,067筆
	会協の	396筆
	会協の	134筆
	会委の	140筆
	会委の	264筆
自治体	栃木県平和委員会	23筆
	日光市	54筆
	下野市	953筆
	栃木市	494筆
	小山市	81筆
合計 (10/31現在)	上三川町	109筆
	壬生町	160筆
	生井町	165筆
合計	16,847筆	

栃木県原水協2018年第43回定期総会

日時: 11月17日(土) 13:30~16:30

会場: 上三川町いきいきプラザ 2F大会議室

第1部: 被爆者のお話と交流 13:30~14:40

第2部: 定期総会 15:00~16:30